

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人 社団明徳会		
事業所名	グループホーム いつくみの郷 (3階)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成24年11月25日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kami=true&ligvosyoCd=2278300311-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成24年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・病院がすぐそばにあり、いつでも受診できる。 ・豊かな田園風景の中で、自然に囲まれ、のんびりと生活できる。 ・毎月季節に合った行事や外出を取り入れ、毎月写真付きのおたよりを利用者及びご家族に配布している。 ・夜間の救急体制も万全である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>浜松市の北部、郊外型商業施設に程近い場所に事業所は位置しています。また、隣接病院と24時間対応の医療連携が出来ていて、安心できる環境にあります。中高生の職場・福祉体験の受け入れが契機となり、新卒でグループ内の施設に入職した学生もおりました。月2回は外出の機会があり、外食ピクニックやドライブで楽しみ、またイチゴ狩りは家族も参加するなど、行事の充実ぶりを毎月発行の「いつくみの郷たより」の中で窺う事ができます。各種の取組みが功を奏し、また職員全員が常勤で定着率も高く、入所前の硬い表情が穏やかな表情と変遷していく様子を見るにつけ、管理者・職員の大きな励みとなっています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも目の届く正面玄関に理念を掲示し、常に理念のもとサービス提供できるよう意識している。利用者が、毎日気持ちよく、安心して過ごせるよう支援している。	玄関に掲示された「気持ちの良い生活」の理念は、職員に「自分ならどうされたいかを常に意識しながらケアに活かすように」と管理者は求めている、毎朝のミーティングで話し合っています。常に立ち戻る原点として、職員の意識に浸透が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の専門学校や文化祭や、併設している老人保健施設の納涼祭に毎年参加しており、近隣の方々と交流をはかれる様にしている。日頃道で会った時にはこちらから積極的に挨拶をするようにしている。また、市内の中学校や高校から、職場体験の要望があれば生徒の受け入れをしている。	自治会にも加入し、散歩時の挨拶やおすそ分けもあり、事業所の祭りにも地域からの参加があります。また、自治会の回覧用に「いくつかしみ便り」を隔月発行しています。中高生の福祉・職場体験を受入れ、来年度は看護体験の受入も予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会用のおたよりを発行し、回覧板にて配布してもらっている。おたよりの内容として、認知症の方々への理解や支援方法、利用者の生活の様子などを掲載している。職場体験の受け入れでは、利用者や職員との触れ合いの中で学んでもらうことができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議開催を継続している。地域の方々やご家族を交えて、状況報告や話し合いを行っている。職員全員が司会者として順番に参加している。会議で出た意見は記録・把握し、サービスの向上に活かしている。	自治会長、民生委員、市、包括、家族代表の参加があり、進行は職員がもちまわりであり、2ヶ月に1度開催されています。参加者からは困難事例に対し中立な立場でアドバイスいただき、自分たちのケアの方向性を評価してもらえるなど自信に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加してもらっている。また、参加しやすいよう会議の場で次回開催日を相談し、決定している。	運営推進会議には市担当者、地域包括も毎回参加しています。案内状も直接窓口へ届け、相談しやすい関係作りを努めていて、有益なアドバイスをもらっています。介護相談員の受入が毎月あり、介護保険課が主体となったグループホームの会議にも参加しています。	市の担当者とは相談しやすい関係が頼えますが、運営推進会議議事録も直接届けるなど、さらに事業所を理解してもらえる工夫を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はいけないことだと、職員全員が理解していると思う。命の危険に繋がるようなことについては、最低限の拘束に留めている。エレベーターの操作は、利用者の安全のため職員が常時行っているが、外に出たい時に出られるように努めている。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、玄関施錠はありません。タッチ式開錠スイッチが、通常の出入りには問題ない位置に設置されていて、利用者が扉前で迷っている時には職員が寄り添って、いつでも出られるように対応しています。最近では事前に察知して外出を誘う対応もできています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	着替えや入浴時など、身体に異常がないか観察するよう心がけている。異常があれば必ず管理者に報告している。職員間で話し合いの場を持ち、暴力による虐待だけでなく、言葉による虐待にも注意していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会はあるが、得た知識を職員全体で共有できるような機会があると思う。成年後見制度については、実際に利用している方がいるので身近に思う。毎月の後見人の訪問の際には、情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、入居前にご家族と話し合い、説明している。面談や会議、面会時などご家族とゆっくり話す機会を設けているので、理解・納得は得られていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や面談などでご家族の要望を聞き、応えられるようにしている。また、書面にて運営推進会議への参加の呼びかけやアンケート送付によりご家族から意見を聞き、運営に反映させている。利用者の意見は常に聞くようにしている。	面会時に職員が気軽に声掛けをし、利用者の状況を丁寧に説明しており、意見の言いやすい関係づくりを心掛けています。面会の少ない家族にはせめて行事への参加をとの思いから、職員が迎えに出向くなど熱心な取り組みがみられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と会う機会が多いので、どんなことでも聞いてもらえる。身近にいたのでコミュニケーションがとりやすい。	フロアミーティングを毎月行っています。また、職員が「一年の反省と来年の抱負、」を書面化し、自発性を持ったケアに取り組んでいます。管理者は職員の夜勤帯に出向いて、個別の相談に乗ることもあり、言いにくい意見の吸上げに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のシフト作成時には、職員の希望に沿った勤務を組んでくれている。例えば、休み希望を通してくれたり、試験を受ける職員がいると試験勉強しやすいよう勤務を組んでくれるなど、職場環境を整えてくれている。給与水準は少し低いように思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に見合った研修や講演会に参加させてもらったり、資格取得をすすめてくれたりと自身の向上に繋がられるよう背中を押してくれる。サービスの質の向上にも繋がられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講演会に参加することで、色々な施設の方と交流を持つことができている。しかし回数はあまりなく、もっと同業者と交流してみたいと思うが、そういう研修自体が少ないように思う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したばかりは不安が大きく混乱しやすいので、傍に寄り添い会話を密に行い、安心感を与えられるよう支援している。生活の様子を細かく記録し、ご家族とも意見交換しながら早く馴染んでもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面談の時間を設けており、質問や要望、不安なことをじっくり聞くようにしている。そして安心してもらえるよう、面会時にはご本人の生活の様子を伝え、ご家族ともコミュニケーションをとるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の許可を得た上で、入居日から1ヶ月間は施設の暫定プランを活用している。ご本人やご家族とのコミュニケーションの中で出た要望なども含めケアに取り組み、ご本人に適し納得してもらえる入居プラン作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でコミュニケーションをとり、ご本人の思いを大切に、信頼関係を築けるよう努めている。嬉しいことも悲しいことも共有し、お互いが必要とされる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時には、居室や食堂でゆっくりしてもらい家族水入らずの時間を大切にしている。また、ご家族に依頼しフロア行事にも参加してもらうなど、ご家族と職員との繋がりも大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族面会時と同様、馴染みの方が面会に来てくれた時も居室や食堂でゆっくり過ごしてもらえるよう努めている。また、フロア行事で外出する際、利用者の自宅の近所や馴染みの場所を通ることもあり、懐かしんでもらっている。	入所歴が長い利用者が多いため、毎週皆で行う習字などのレク活動が馴染みのひとつとなっています。新聞を購読したり、家族との外出で楽しむ利用者もおり、また、若い職員にゆかたの着付けをしてあげ、優しい母親の一面が表出する利用者もおります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように、できるだけ気の合う仲間同士と一緒に行動できるよう職員間で十分考えながらテーブルの席を決めている。外出や外食の時も同様、エスケープなどのリスクも考え、気の合う方同士で行動できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合は、利用者と一緒にお見舞いに行くなど関係を継続することができるが、退所となると疎遠になってしまうことが多い。中には、退所後もご家族と顔を見せに来てくれたり、仲間と一緒にコーラスを披露しに来てくれる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から、どうしたいか・何をしたいかご本人の意見に耳を傾けている。また、ミーティングなどで職員間でも話し合い、本人本位に検討できるよう努めている。	利用者と職員の関係が長いので、日々のケアを通して利用者の意向把握ができています。イエスノーで答えられるような話材の提供で表出に努め、利用者の心にコミュニケーションしようとする工夫が見られます。得られた発語は生活記録と実施記録表に記し介護計画に反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談でセンター方式を活用し、ご本人やご家族の情報を得ている。また、日々の会話からこれまでの生活についてご本人やご家族からも話を聞き、新しく得た情報は生活記録などに残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを重視し、その人らしい生活ができるよう努めている。毎日バイタルチェックを行い、変わったことがないか普段からよく観察するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでは職員全体で話し合い、ご本人が求めるケアとは何なのか視野を広く持ってその人らしいケアプラン作りに努めている。また、プランを変更した際には、面談の時間を設けてご家族に説明し、理解を得ている。	毎月のケアプラン会議で話し合い、3ヶ月ごとの評価見直しに繋がっています。時には理学療法士の参加も得て、別チャンネルからの意見も加え、画一的にならない介護計画を目指した仕組みがあります。変更の際には、家族に面談し了解を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノートへこまめに記入し、申し送りも行い職員間で情報共有できるようにしている。ケアプラン作りの参考にしたり、より良いケアに繋がられるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の生活や健康状態を把握し、その時のご本人に合った介助や支援ができるように努めている。ご家族との面談で要望を聞き、職員間でもご本人に合ったニーズを考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1~2回フロア行事として外食やピクニックを企画し、皆で参加している。利用者の要望に合わせ買い物もできるよう支援している。近所にどんな施設やお店があるのかりサーチして把握し、その時出掛けるのに1番最適な場所へ行けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族同意のもと、経営母体である病院へ定期的な内科受診ができるよう支援している。診察内容や検査結果は、面会時や書面にてご家族に報告している。	ほとんどの利用者が経営母体の病院をかかりつけとしていて、利用者と家族の最大の安心となっています。看護師資格の管理者のもと、毎日のバイタルチェックと24時間対応の病院が後盾となり、緊急時には速やかな対応ができる秀逸な医療連携が叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なので、利用者の心身の状態についていつでも相談・報告ができています。毎朝申し送りを行い、話ができる環境にある。かかりつけ医が近いということもあり充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医へ入院することが多いので、連絡がとりやすい環境にある。病院関係者との関係づくりは管理者を中心にできており、職員も受診に付き添うことで顔見知りになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、必要になった時にご家族・管理者・職員・主治医が共に協力し合えるよう日頃から良い関係作りに努めている。	継続医療の必要がない利用者の終末期ケアに取り組んだことがあります。看取りの実績はありません。重度化には病院への転所を支援し、入院後も職員が経過を覗いに行くなど、家族・管理者・職員・主治医が共に協力し合えるよう、日頃からより良い関係作りに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに緊急時対応マニュアルが置いてあり、急変時や事故発生時などに役立てています。管理者からの指示があれば、かかりつけ医へ救急で行くようにしている。いざという時に慌てないように、シミュレーションするよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回行われる法人内の避難訓練に参加している。また、連絡網を利用し勤務外の職員へ応援を仰ぐ訓練もしている。地域の方々とも協力体制をとるにはどうしたらよいか、運営推進会議で議題にあげ、話し合うことができた。	年に2回、隣接の関連施設と防災訓練を行い、自前の設備で放水訓練もしています。地域からの参加はありませんが、運営推進会議では地域の避難所的な役割を担うとの意見もあり、有事に備え関連施設と一体となった備蓄に取り組んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の生活で、言葉遣いや態度には特に気をつけているつもりだが、反省する面もある。常に相手の立場に立ち、自分だったらどうするのか、どうして欲しいか考え対応に注意したい。	利用者の人格を尊重し、呼称は名前にさんづけを基本としていますが、利用者や家族の希望でちゃんづけの場合もあります。会話では常に敬語を心がけていて、とりわけトイレケアには配慮しています。毎年法人研修で接遇研修を受け、内部研修で共有化しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日コミュニケーションをとることにより信頼関係を築き、話しやすい環境作りに努めている。また、日常会話の中だけでなく利用者の表情や行動もよく観察し、ご本人の切なる思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間をご本人のペースに合わせるなど、個々の生活リズムを大切にしている。そのことを念頭に置き支援しているつもりだが、時間に余裕がない時は業務優先になっていることがあるので反省している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、着替えの時にはなるべくご本人の着たい服を選んでもらうようにしている。また、声掛けや介助にて洗面や整髪をしている。外出時に眉ペンでお洒落をする利用者もあり、その人らしい身だしなみやお洒落ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や食事内容は個々に合わせており、充実した食生活を送られるよう支援している。また、食事準備から片付けまで、利用者と職員が協力し合い行っている。週に1度の食事作りの時には、利用者意見に聞き、献立に取り入れるようにしている。	食事は法人内の厨房センターから届けられていますが、週1~2回は準備から片付けまで、利用者と職員が協力し合い行っています。米とぎに精を出したり、食器の片付けで以前の自分を発揮する利用者の姿があります。週1回は汁粉やふかしイモなどおやつ作りを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母長後、摂取量を記録し体調チェックにも努めている。食事で固いものがあつたら細くするなどして、食べやすい工夫している。食事から十分な栄養を摂ることが困難な時は、栄養補助食品などを活用している。水分補給には十分気をつけ、まめに摂取するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをする方はいるが、徹底はしていない。夕食後は毎日、声掛けや介助にて歯磨きやポリデント洗浄で口腔ケアができるよう努めている。拒否が強い方は、食後にお茶を飲み口腔内をさっぱりしてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	皮膚トラブルの予防や、自力での排泄を入りにし、日中は極力布パンツで過ごせるようトイレ誘導や声かけを行っている。夜間は安眠できることを優先し、個々に合わせて紙パンツやオムツも使用しながらトイレ誘導やパット交換を行い、できるだけ自力での排泄に努めている。	排泄記録表でパターンを把握し、声掛け誘導で失敗の少ない排泄に努めています。一人ひとりに合った排泄支援に取り組んでいて、夜間は安眠優先や定時声掛け誘導等、その人に合った排泄方法を選んでいきます。出来るだけ夏は布パンツを心がけていて、入所前から改善した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難な方や確認できる方は排泄サエツをし、職員間で把握している。個々に合わせ下剤の内服や座薬を使用している。便秘予防の一環として、毎朝ヤクルトを飲み水分補給に努め、粉末の食物繊維を活用している方もいる。日中は活動的に過ごせるようにし、薬だけに頼らず自然排便ができるよう主人浴介助が大変な方は、職員の人数が確保されている日中に入ってもらうことになってしまいが、なるべくご本人のタイミングで入れるようにしている。拒否が強ければ無理強いはいできないが、清潔保持の為に、体調や気分が良い時に合わせ声かけをし、入ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助が大変な方は、職員の人数が確保されている日中に入ってもらうことになってしまいが、なるべくご本人のタイミングで入れるようにしている。拒否が強ければ無理強いはいできないが、清潔保持の為に、体調や気分が良い時に合わせ声かけをし、入ってもらっている。	毎日入浴準備があり、希望すればいつでも入浴可能で、朝、昼、晩の好きな時間に入浴できるよう支援しています。自立入浴で夜入浴を味わう利用者もおります。湯は個々に張り変え入浴剤も選べます。柚子や蜜柑風呂なども試みています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く休んでもらえるよう、就寝前の声掛けには特に気をつけている。自分から寝たいという気持ちになってから休んでもらうようにしている。日中も、眠そうにしていたり、疲れたと訴えがある時には居室でゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された時は、お薬のしおりを見てどんな物が確認している。処方された薬をセットする時や与薬時には、間違いのないよう十分気をつけている。また、症状や内服量など看護師に相談し、主治医とも連絡を取り調整してもらっている。受診記録も欠かさずチェックし、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事は、一人ひとりできることを行ってもらえるよう支援している。散歩・買い物・お喋り・テレビ・本など楽しみはある程度あるように思う。一人ひとりが毎日有意義に過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1~2回の外出や外食が楽しみの一つとなっている。また、1日1回の外出・散歩は今年度のフロア目標としている。日頃から天候をみて、ごみ捨てや散歩など毎日できるよう努めている。最近はないが、ご家族と一緒に外出する方もいた。	毎月1、2回は買い物や外食に出掛けていて、下着などショッピングモールでの個別購入支援も行っています。イチゴ狩りや初詣、また、フルーツパークなどにも出掛け、季節を楽しんでいます。散歩は近・中・遠の3コースを用意していて、体力に合わせて選んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症がひどく自己管理が難しいので、ご家族の許可を得て施設で管理している。個人的な買い物はあまりないが、機会があれば、できる方には声かけしながら一緒に会計をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にできるようになっているが、活用する方はほとんどいない。中にはご家族から手紙が届き、声掛けにて電話や手紙でお礼を伝える方もいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安や混乱を招くような刺激的なものはないようにし、季節にあったものを飾ったりして雰囲気作りに努めている。毎日利用者と掃除をする際、空気の入替えを行っている。状況に合わせて適度にエアコンを使用し、除湿や加湿も行い常に居心地よく過ごせるよう努めている。	行事で出掛けた写真が壁に飾られ、楽しい思い出がよみがえってきます。温度湿度計でしっかり管理され、エアコンと、程良い換気で外気との温度差が少ない快適な居住空間ができています。バリアフリーの畳の間に、くつろぎの雰囲気ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル以外に二人掛け・三人掛けのソファを置き、仲の良い方同士でそれぞれ好きな場所で過ごせるようにしている。食堂から死角になっている場所もあり、窓から外を眺めたりそこでお喋りをする姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の荷物についてはご本人やご家族に任せている。入居の際には新しいものではなく、使い慣れた馴染みのあるものを持ってきてもらうようにしている。寝具も個々に合わせ、ベットや布団を使用している。	カーテン、電動ベッド、押し入れ、エアコン、洗面台が備え付けてあって、ベッド困難者はクッションフロアを敷いています。筆筒、仏壇、冷蔵庫、ソファなどの馴染みの物の持ち込みもあり、また、趣味の大正琴を持ち込んで利用している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、足に引っかけやすいものや余分なものは置かないようにし、環境整備に努めている。自分で自由に動けるよう見守りを強化しており、自立支援に努めている。		